

自然教育・野外教育プログラム ～実践事例～

○「自然体験型」のプログラム例

対象学年（小学校・中学校 全学年）教科等（総合的な学習の時間）

「ふるさとの自然を身近に感じて」

このような子どもたちが

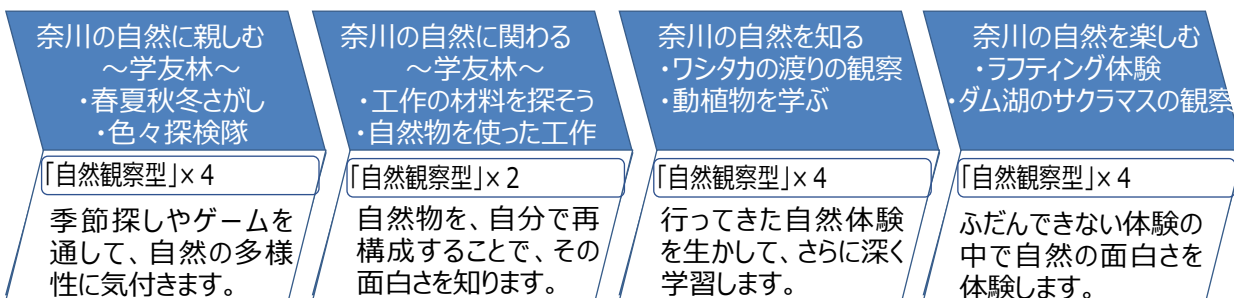
- ・豊かな自然の中に育っているが、その自然の奥深さ、面白さにまだ十分に気付いていない。
- ・自然体験でもまだ受け身的で、自分から自然に関わってほしいという意欲が低い。

こうなります！

- 身の回りの多様な自然の姿に魅せられ、主体的に自然に関わるようになります。
- ふるさとの自然の面白さ、豊かさに気づき、自分のふるさとを誇りに思うと共に、大切にしていこうという意識をもつようになります。

<「自然体験型」のアクティビティをいくつか組み合わせた総合的な学習の時間のプログラム例>

○ふるさとにある自然から、主に学校林での観察活動や自然観察を体験する。その体験を生かして、ワシタカの渡り等の貴重な自然の営みを主体的に観察したり、ラフティング体験を通して多様な自然の生態にふれたりして、ふるさとの自然の素晴らしさを感じ取っていく。



P 18、P 19 を参照

P 34 を参照

P 73 を参照

<計画上の留意点>

- ・学友林に関しては、まず教師や外部指導者が行って見て、子どもたちと、どんな活動ができるかを体験的に考えてから、活動に入っていく。
- ・自然物での工作は、小学生は自然物をそのまま使った工作が、中学生は、加工したもので本格的な椅子や本棚をつくってみる。
- ・ワシタカの渡り等の観察については、外部指導者とよく打ち合わせをし、子どもが十分に自然への興味関心が深められるようにする。
- ・ラフティングについては、外部指導者とよく打ち合わせをし、慎重に行う。体験だけに終わらせずに、ラフティングをする中で感じた自然の素晴らしさを記録に残しておく。

○「学校行事型」のプログラム例

対象学年（ 中学校 1 学年 ） 教科等（ 学年行事 ）

「事前学習とつながらながら、現地の自然や宿泊の良さを生かしたキャンプに向けて」

このような子どもたちが

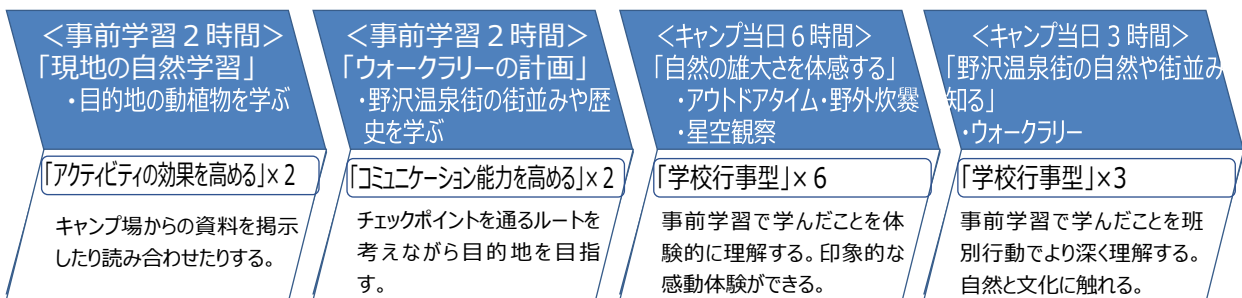
- 宿泊行事の目的の1つに「自然の雄大さを体感すること」を掲げている。
- 野沢温泉村のウォークラリーに向けて、班で計画を立てる。

こうなります！

- インストラクターの方の説明や目的地の自然を生かした自然体験・自然観察を通して、生徒の感性や好奇心、探究心などが育ちます。
- 仲間と課題を解決するコミュニケーション力が高まります。

<「学校行事型」のアクティビティをいくつか組み合わせた（ キャンプ ）・プログラム例>

- キャンプ当日の昼の活動に、アウトドアタイム（自然散歩・岩魚つかみ・岩魚さばき）を実施し、その体験の質が高まるように、関連するアクティビティを事前学習に位置づけます。



P 73 を参照

P 61 を参照

P 51、P 57 を参照

P 61 を参照

<計画上の留意点>

- ・事前学習が生かされるように当日の活動内容を計画する。
- ・キャンプ 1 日目のアウトドアタイム、飯盒炊さんに向けて参考となるアクティビティと 2 日目のウォークラリーに向けて参考となるアクティビティを計画しました。
- ・飯盒炊さんは班ごとに行い、ウォークラリーは班別行動のため、班での協力する気持ちを高めていくことを大切に考えています。
- ・ウォークラリーでは野沢温泉村の自然や文化などに触れられるようにチェックポイントをつくり、通過するように計画する。計画を立てる時には、班員全員で話し合うようにします。また、どこが見所か、何が有名か、どんな歴史や背景があるのかを資料を参考に計画表にまとめます。
- ・班の中で孤立する生徒が出ないように配慮しています。

○「学校行事型」のプログラム例

対象学年（中学校 1 学年） 教科等（総合的な学習の時間）

「信州の高原を愛する人と接することで、より自然が好きになる活動を展開してみませんか？」

このような子どもたちが

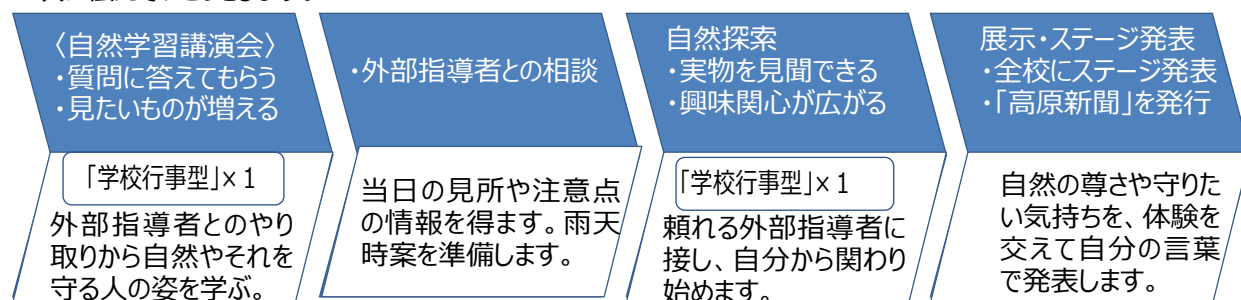
- ・信州の自然に観光客として触れる機会は多いが、その魅力を語るまでには至っていない。
- ・動植物や地理・歴史の調べ学習が受け身になりがちで、訪問地のもつ価値や尊さを感じ取れずにいる。

こうなります！

- 自然の良さとそれを守る姿に触れて、今度は自分が担い手になり、人に伝えていこうという意識が高まります。
- 講師への信頼感が生まれ、自らコミュニケーションを取り、自分の持った疑問を解決しようとする。

<「学校行事型」のアクティビティをいくつか組み合わせた総合的な学習の時間プログラム例>

○ガイドさんは、エコツーリズムの概念を体現してくれています。高原の散策で外部指導者から伝えていただいたものを、次に伝えていこうとします。



P 73 を参照

P 71 を雨天時企画に

P 61 を参照

<計画上の留意点>

- ・学習講演会では、外部指導者に「その職業に就いた動機」「仕事のやりがい」等についても触れていただく。
- ・遠方の外部講師を学校に招き講演会を開く場合、自然散策当日の打ち合わせを綿密に行う。
- ・雨天時企画の立案は、複数用意しておいて、雨の降り具合でどの案で実施するかを決定する。
- ・雨天時の代替事例
 - A 案：終始、小雨であるならば全行程を実施。
 - B 案：次第に雨脚が強くなるならば、短縮したトレッキングルートで実施。
 - C 案：終日、大雨ならば、宿舎内で外部指導者より①講演、ロープワーク等のアクティビティを実施。
- ・自然探索では、各学級に外部指導者に入っていただき、生徒一人一人が触れ合える機会を確保する。
- ・自然探索中は、学校職員も外部指導者の近くに身を置く。外部指導者と生徒のやり取りを把握しておき、好ましい姿を後日、発信していく。

○「自然体験型」のプログラム例

対象学年（全学年有志）

「地元の団体や自治体と協働で自然教育を通してキャリア教育をしませんか」

このような子どもたちが

- ・自分たちの住んでいる地域に興味がありません。地域の大人との交流が少ない。
- ・長野県が自然豊かで美しい土地であることは漠然と感じているが、他県の人にその良さをアピールする情報量が乏しい。

こうなります！

- 地域を盛り上げようと活躍している大人たちと関わる中で将来に目標を持って地域のためになろうとする。
- 自分たちの生活している環境の素晴らしさに気づき、それを持続していこうと活動できる。

<「自然体験型」のアクティビティをいくつか組み合わせた（キャリア教育）・プログラム例>

○自分たちの地域で取り組んでいる自然保護を目的とした活動に参加して、持続可能なまちづくり考えていく力を養う。

志賀高原の植樹イベントの
ABMORI や環境保全活動への参加

「自然体験型」×3

「地域共同・社会貢献」×2

皆と働き、自然保護の活動を通して現状を把握できる外部指導者による事前学習会をすることで当日の目的やイベントの目的が共通理解できる。

森林を巡り自然と親しむ
実生活にない不便さを楽しむ

多種多様な生き物の存在を知り、共生していることを知る。資料や授業で学んだ知識が自分の生活圏の中にあることを実感する。

課題を見つけ、解決に向けた
行動目標をたてる

自然環境保護と地域活性のために、自分が将来身に付けたい学びに目標をもつ。事前・実践・事後学習を通して学習の振り返りをまとめる。文化祭や学校行事で、取組を伝える。

<計画上の留意点>

- ・ボランティアに参加する事だけを目的として、その場限りの一過性の活動にならないようにする。そのための準備として事前学習の計画を立て、事後のまとめを複数の人と関わりながら行うようにする。
- ・生徒の有志による活動であるため、長期的に取り組む事は難しいので、事前学習からまとめまですべての取組が2～3ヶ月の間で終わるようにする。
- ・社会性を身につけることも大切な目標である。課外活動の中では地域の異年齢の方との交流がされるように外部団体の方と綿密な打ち合わせが必要。

○「自然体験型」のプログラム

対象学年（高校2～3学年）教科等（総合的な探究の学習）

- ・自然体験活動を通じ、生徒たちの生きる力を高めませんか？
- ・人、組織の可能性を切り拓いていきませんか？

このような生徒たちが

- ・表面的には友人と仲良く付き合うが、真に困ったときなどに自分の内にもこもり、他者に協力依頼や自己開示ができない。
- ・困難に対する抵抗力が希薄である。
- ・自己の狭い枠にもこもり、それ以外のことに対して無関心である。

こうなります！

- 目的・目標を決めてから行動することの重要性及び課題達成に向け、目的を明確化したうえで、固定観念に囚われずに最適手段を決めることができるようになった。
- 成功体験→達成感→自己効力感→自尊心と自尊心の前提となる達成感から自尊心の向上が見られた。

<「自然体験型」のアクティビティをいくつか組み合わせた総合的な学習プログラム>

- 「TP Shuffle」：1本の丸太を活用し、一定の命題の元に、丸太の上から落ちないように順番を入れ替える。
- 「Giant Seesaw」：大きなシーソーの上に、一度もシーソーが地面につかないように乗る。
- 「Mohawk Walk」：木々の間に渡されたワイヤーを全員協力し、支え合いながら、わたりきる。
- 「Wall」：高さ5mの壁を何の道具も使わず仲間だけで、全員乗り越える。
- 「5段階型 Sky Athletic」：地面を触れることなく移動する上で、自然と身体接触をとめないながら、うち分けあう。

課題を活用して組み立てる能力開発

「信頼感」 相手を信頼する感情の醸成	「達成感、自己効力感」 「自分是可以、やっていける」という気持ちを持たせる。	「洞察力」 相手の心を感じとり、喜びや辛さなどを共感して行動できるようにする。	「感情表出力」 他者に助けを求めることができるなど、感情の表出ができるようになる
「自然体験型」×2 話し合いながら、慎重に挑戦する。	「自然体験型」×2 グループの力を生かし、ふれあい協力、コミュニケーションを育む。	「自然体験型」×2 グループの力を生かし、問題解決能力を、達成感を育む。	「自然体験型」×2 グループの集中力をもって実行すれば成し遂げられる充実感を育む。

P 54 を参照

P 54 を参照

P 54 を参照

P 54 を参照

<計画上の留意点>

- ・野外教育は、プログラムの立案と実施を、民間組織である RISING FIELD KARUIZAWA に協力をあおぎ、双方向的な形で実施することが必要である〔プログラムでの立案時点から教員と民間組織（RISING FIELD KARUIZAWA）のスタッフが何度もミーティングを行い、キャンプで生徒につけさせたい目標を確認しながら内容をつくりあげていくことが大切である〕。
- ・一定の目的や、学習目標を見据え、各課題取り組み後の効果的な振り返りをしっかりとすることが大切になる。下手をするただ単に「楽しかった」という場にしかなりかねない。
- ・生徒によっては、自己の意味づけさえまならない混乱の状況にあるものがあるので、医療機関、保護者と話し合いを持ち参加の有無等も検討する必要がある。

○「学校行事型」のプログラム例

対象学年（ 小学校5学年 ） 教科等（ 総合的な学習の時間 ）

「 学校で行う日帰りアウトドア教室 」

このような子どもたちが

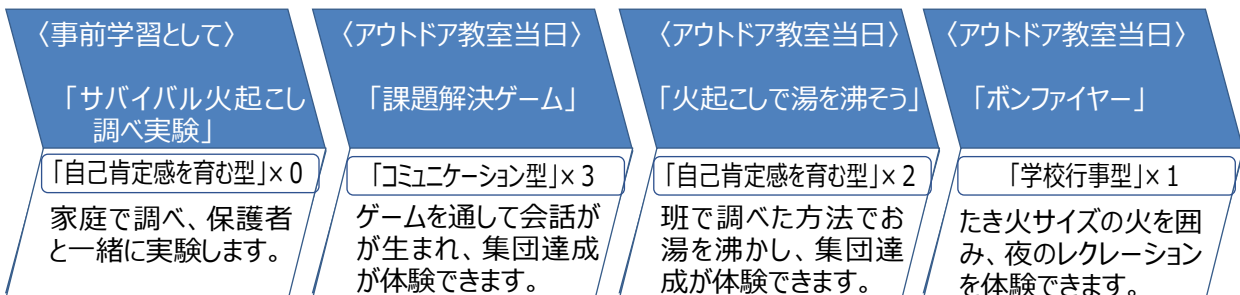
- ・リーダーシップがとれない子どもたち。
- ・自分に自信がなく、また友だちに聞きいれてもらえないので、自己主張することが少ない子どもたち。
- ・大人や仲間の話に耳を傾けられない子どもたち。

こうなります！

- 自己主張をしながら、友だちの意見も聞き入れ、男女関係なく協力して課題解決ができるようになります。
- 文句や否定がなくなり、意見が積極的になります。

<「課題解決能力を高める」アクティビティをいくつか組み合わせたプログラム例>

- コロナ禍でキャンプ宿泊行事ができず、代替案として学校でのアウトドア教室を企画した。
- 給食後、午後スタートし、20:00 保護者の迎えによる下校する日帰りで行う。
- 事前学習は、火起こしについて調べ実際にやってみることを週末の家庭学習として行った。
- 参加にあたり、特別に購入準備するものはなく、子どもの係分担や活動も行わない。



P 49、P 51 を参照

P 54、P 58 を参照

P 49、P 51 を参照

P 68 を参照

<計画上の留意点>

- ・班編制を熟考します。リーダー、ムードメーカーがそろって5～8人の班をつくりましょう。
- ・雨天でも実施できるプログラムです。火を使う場合は、軒下など適切な場所を確保しましょう。
- ・課題解決ゲームでは、教師は写真撮影もしくは特別に配慮が必要な児童に気を配るなど、子どもたちと距離を置いて、外部指導者に任せましょう。
- ・知恵、汗、声、力を出し合うことで課題解決ができることを体験的に学びます。集団達成ができた成功体験を、振り返りの中で位置づけて、その後の学校生活でいかしていきましょう。

プログラム例 ～R3 実践事例～

○「学校行事型」のプログラム例

対象学年 (5 学年) 教科等 (総合的な学習の時間)

提案プログラム 「 学校で行う日帰りアウトドア教室 」

このような子どもたちが

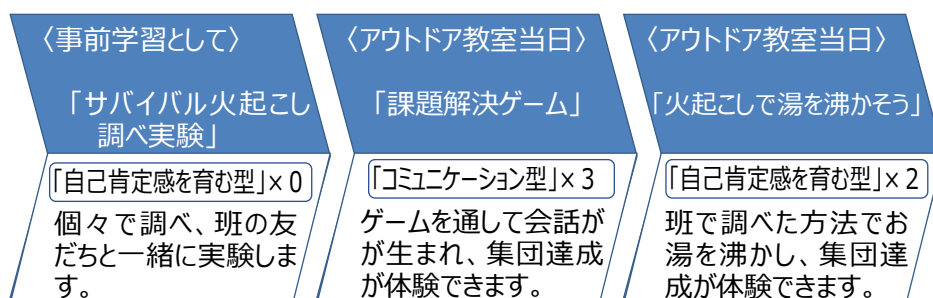
- ・リーダーシップがとれない子どもたち。
- ・自分に自信がなく、また友だちに聞き入れてもらえないので、自己主張することが少ない子どもたち。
- ・仲間の話に耳を傾けることが困難な子どもたち。

こうなります！

- 自己主張をしながら、友だちの意見も聞き入れ、男女関係なく協力して課題解決ができるようになります。
- 文句や否定がなくなり、意見が積極的に伝えられるようになります。

<「課題解決能力を高める」アクティビティをいくつか組み合わせたプログラム例>

- コロナ禍でキャンプ宿泊行事ができず、代替案として学校でのアウトドア教室を企画した。
- 通常登校後にスタートし、通常下校する日帰りで行う。
- 事前学習は、火起こしについて調べ、実際にやってみることを週末の家庭学習として行った。
- 参加にあたり、特別に購入準備するものはなく、子どもの係分担や活動も行わない。



P 49、P 51 を参照

P 54、P 58 を参照

P 49、P 51 を参照

<計画上の留意点>

- ・班編制を熟考します。リーダー、ムードメーカーがそろって5～8人の班をつくりましょう。
- ・雨天でも実施できるプログラムです。火を使う場合は、軒下など適切な場所を確保しましょう。
- ・課題解決ゲームでは、教師は写真撮影もしくは特別に配慮が必要な児童に気を配るなど、子どもたちと距離を置いて、外部指導者に任せましょう。
- ・知恵、汗、声、力を出し合うことで課題解決ができることを体験的に学びます。集団達成ができた成功体験を、振り返りの中で位置づけて、その後の学校生活でいかしていきましょう。

○「自然体験型」のプログラム例

対象学年 (小・中全) 教科等 (総合的な学習の時間)

提案プログラム「ふるさとの自然を身近に感じて」

このような子どもたちが

- ・豊かな自然の中に育っているが、その自然の奥深さ、面白さをもっと多面的に学ばせたい。
- ・自然体験でもまだ受け身的で、自分から自然に関わってほしいという意識が低い。

こうなります！

- 身の回りの多様な自然の姿に魅せられ、主体的に自然に関わるようになります。
- ふるさとの自然の面白さ、豊かさに気づき、自分のふるさとを誇りに思うと共に、大切にしていこうという意識をもつようになります。

<「自然体験型」のアクティビティをいくつか組み合わせた総合的な学習の時間のプログラム例>

○ふるさとにある自然から、主に学校林での観察活動や自然観察を体験する。その体験を生かして、ワシタカの渡り等の貴重な自然の営みを主体的に観察したり、ラフティング体験を通して多様な自然の生態にふれたりして、ふるさとの自然の素晴らしさを感じ取っていく。

<p>ふるさとの自然に親しむ ～学友林～ ・春夏秋冬さがし ・色々探検隊</p> <p>「自然観察型」×4</p> <p>季節探しやゲームを通して、自然の多様性に気付きます。</p>	<p>ふるさとの自然に関わる ～学友林～ ・工作の材料を探そう ・自然物を使った工作</p> <p>「自然観察型」×2</p> <p>自然物を、自分で再構成することで、その面白さを知ります。</p>	<p>ふるさとの自然を知る ・ワシタカの渡りの観察 ・発電所見学等</p> <p>「自然観察型」×4</p> <p>行ってきた自然体験を生かして、さらに深く学習します</p>	<p>ふるさとの自然を楽しむ ・自然の中を クロスカントリーで歩く</p> <p>「自然観察型」×4</p> <p>ふだんできない体験の中で自然の面白さを体験します。</p>
---	---	---	---

P 18、P 19 を参照

P 34 を参照

P 73 を参照

<計画上の留意点>

- ・学友林に関しては、まず教師や外部指導者が行ってみて、子ども達とどんな活動ができるかを体験的に考えてから、活動に入っていく。
- ・自然物での工作は、図画工作や総合的な学習の学びとリンクさせながら行う。アクティビティを使った図画工作、楽器等の製作等、発達段階に応じた活動ができるとよい。
- ・ワシタカの渡り等の観察については、外部指導者とよく打ち合わせをし、子どもが十分に自然への興味関心が深められるようにする。
- ・クロスカントリーの学習等も講師の活用を考え、安全に気をつけて価値ある自然体験ができるように考える。

○「学校行事型」のプログラム例

対象学年 (中学校 1 学年) 教科等 (学年行事)

提案プログラム「生徒主体の事前準備と繋げながら、現地の自然環境を活かした自然体験学習に向けて」

このような子どもたちが

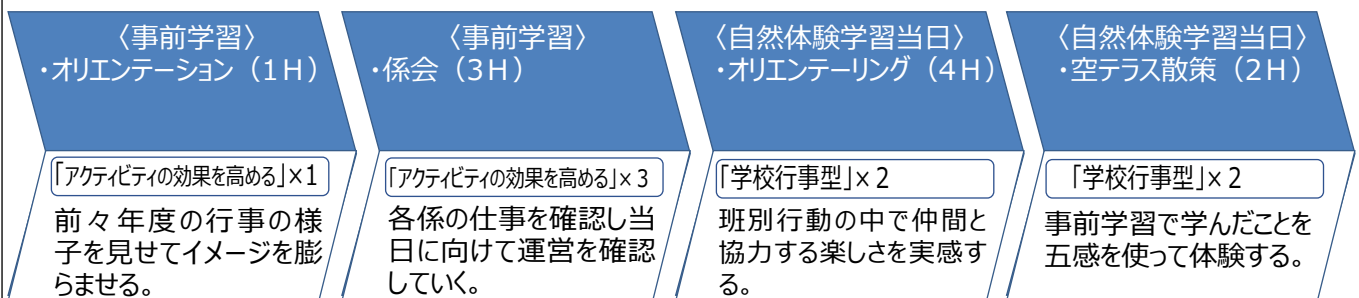
- ・新型コロナウイルスの影響で多くの学校行事が変更・中止を余儀なくされ、集団での活動を経験できていない。
- ・長野県で生活しているがあまり自然とふれあっていない。

こうなります！

- 仲間と協力をし、何かを達成する楽しさ・難しさを実感することで、集団での活動の意識が高まる。
- 自然の中で活動することによって自然の素晴らしさ、厳しさに気づき、自分たちの県の自然に誇りを持つことができる。

＜「学校行事型」のアクティビティをいくつか組み合わせた（自然体験学習）・プログラム例＞

- 事前の学習・係会など生徒が主体になって動き、当日も運営していく。その中でオリエンテーリング・散策を実施し、自然の中で集団活動の大切さを実感していく。



P 61 を参照

P 23 を参照

＜計画上の留意点＞

- ・生徒たちが見通しを持って動けるように前々年度の様子が分かるように写真などを用いながらイメージをさせる。
- ・生徒たちが当日運営をしていくので、事前にどのクラスの人が担当するのかなど準備を入念に行う。
- ・係会では各係の係長のもと動いていけるように教員がサポートしていく。また、学年の廊下に自然体験学習に関する資料や各係でまとめた模造紙を貼るなどして生徒たちのワクワクを増やしていく。
- ・オリエンテーリングは班別行動をするため、班での協力する気持ちや、みんなで楽しむ気持ちを高めていくことを大切に考える。
- ・ロープウェイの乗車場面では、仲間や他の乗客に迷惑をかけないようにマナーを確認したり、時間を見て行動したりすることを確認しておく。

○「学校行事と自然学習の統合型」のプログラム例

対象学年 (1 学年) 教科等 (総合的な学習の時間)

提案プログラム「プロの方から学んだことと自分が体験した感動の伝道者になろう」

このような子どもたちが

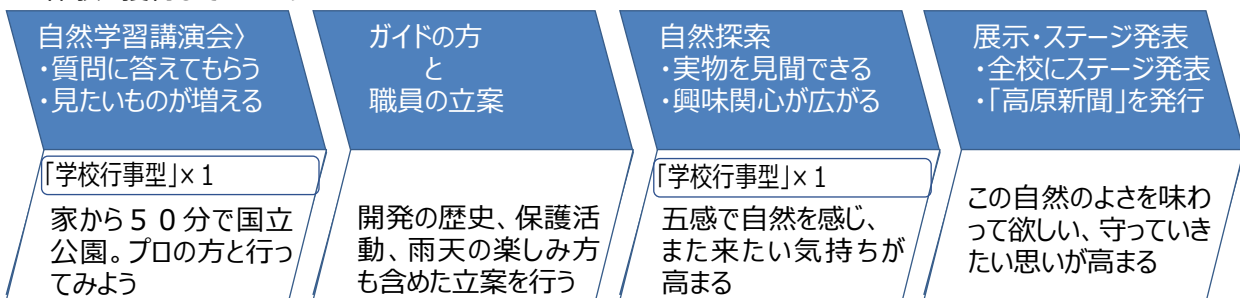
- ・地元から少し離れた国際的観光地を知らない
- ・「こんな自然があるのだよ」と語れない

こうなります！

- 観光地を誇りに感じ、リピーターやサポーターに
- 体験を交えて語り、発信できる

<「学校行事型」のアクティビティをいくつか組み合わせた総合的な学習の時間プログラム例>

○「次に親戚が来たら、自分が志賀高原を案内できるようになろう」をスローガンに、ガイドさんの力を借りて知識・体験を獲得していきます。



P 7 3を参照

P 7 1を参照

P 6 1を参照

<計画上の留意点>

- ・ガイドの方と生徒の距離が近くなるように、講演会での質問コーナーや散策での休憩時間の長めの設定をする。
- ・ガイドの方の自然に対する思いを語っていただく機会を設定する。
- ・キャリア教育につながるように、「なぜガイドになったのか」、「なぜ志賀高原を選んだのか」について、生徒から質問ができるようにして、思いを共有する。
- ・自然を好きになれるように、雨の日企画を楽しいもの（クラフト体験・外来植物駆除⇒栞にする・歴史館訪問・ホテル支配人によるヨガ講習など）にしたり、散策の旅程をゆったりさせておやつタイムも入れたりする。
- ・目的地のゆるキャラ（志賀ならばオコジョのオコミン）を、描いて廊下掲示するなど当日へのモチベーションを高めていく。

○「自然体験型」のプログラム例

対象学年 (高校 2、3 年) 教科等 (地歴公民、理科、英語、商業、総合的な探究の時間)
提案プログラム「南信州南部地域の自然をフィールドに、生徒自らが探究するプログラム」

このような子どもたちが

- 中学校でなかなか自然を体験する機会が少なく、学校でもリーダーシップをとることが少ない。
- スマートフォンでゲームや動画を見る時間が長く、体験的な活動の経験が少ない。
- 家庭と学校だけの人間関係にとどまって、地域のつながりが希薄である。

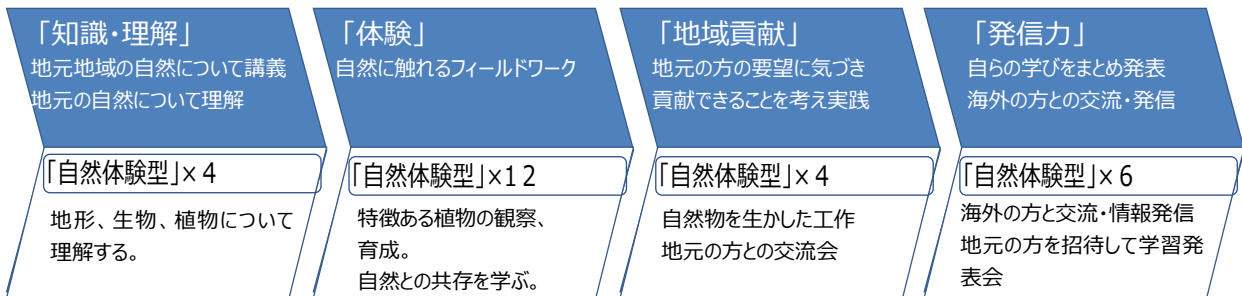
こうなります！

- 自分 1 人の力でもできることがあることに気づき、自信がつき、自己有用感が高まる。
- 地元の自然の大切さに改めて気づき、自らができることを考える。
- より多様なコミュニケーションを学び、地域に貢献できる方法を考えるようになる。

<「自然体験型」のアクティビティをいくつか組み合わせた地域探究プログラム例>

- 地歴公民、理科の授業で南信州南部町村 (下條村、阿南町、売木村、泰阜村、天龍村) の地元の自然について基礎的な知識を学ぶ。
- 地歴公民、理科で学んだ知識をもとに地元の自然に触れるフィールドワークをおこなうことを通じて、地元地域で行われている環境保全活動について体験しながら学ぶ。
- 英語の授業で地元の自然を海外に情報発信している方の講義、演習を通じて、海外の方から見た地元の自然の魅力を知る。
- 商業で地元の自然を生かしたビジネスについて学びながら、地元の方との交流や情報発信について学び、より多くの方に地元の魅力について知ってもらう方法について生徒自らが考えていく。

教科横断型学習をととして得た学び



P 40 を参照

P 35、56 を参照

P 73 を参照

P 50、61 を参照

<計画上の留意点>

- ・ 教科を横断した内容になるため、各教科、各コースをまたいだ指導内容について情報共有及び打ち合わせを念入りに行う。
- ・ 生徒の中には小・中学校でもこのような経験をしないまま、高校へ進学した生徒も多く、自然の危険性を理解していないケースも多い。特に山間地域での体験が多いため、体験地域への往復を含め、生徒自身が身の安全を確保する方法を理解し事前学習をしっかりと行う。
- ・ 地域連携の方法については、地元町村とも連絡を密に取り合い、地域コーディネーターとともに内容の検討を行う。

プログラム例 ～ R 4 実践事例～

○「自然体験型」のプログラム

対象学年 (小学校3学年) 教科等 (総合的な学習の時間)

提案プログラム 「 川を通して環境問題を考えませんか? 」

このような子どもたちが

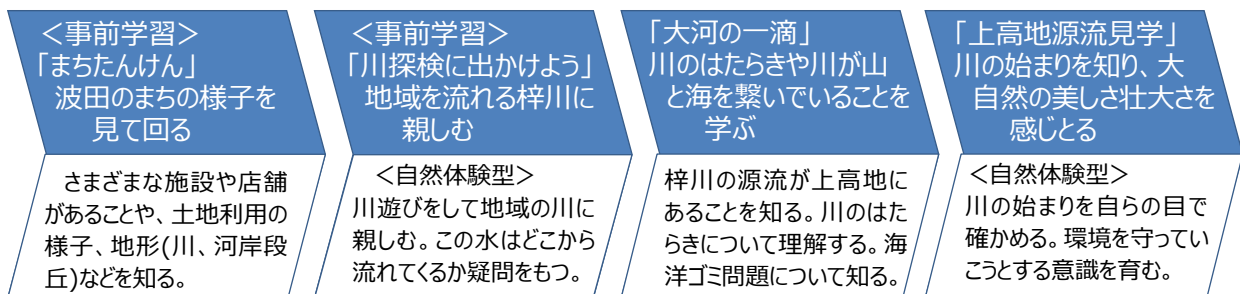
- ・自分たちの地域のことにあまり関心がなく、そのために地域のことをよく知らなかったりよさに気づけなかったりしている。
- ・自然のよさや美しさを味わう経験が少ない。

こうなります!

- 自分たちの地域を流れている川に愛着をもち大切にしていこうという意識をもつようになります。
- 自然の美しさや壮大さを実感し、主体的に自然に関わるようになります。

<「自然体験型」のアクティビティをいくつか組み合わせた総合的な学習の時間プログラム例>

- 自分たちの地域を流れる川に興味をもち、「この水はどこから流れてくるのか」という探究心から源流を訪ね、川の始まりについて知り、豊かな自然を守っていこうとする力を養う。



<参考となるアクティビティ>

P 13

P 23、P 73

<計画上の留意点>

- ・川探検は、安全面への配慮を十分に行った上で実施するようにする。(天候、水量、流れの速さ、周囲の河原や崖の状況、熱中症対策など)
- ・「大河の一滴」については、外部指導者とよく打ち合わせをし、子どもたちに特に伝えたいことを焦点化しておくようにする。
- ・「上高地源流見学」については、外部指導者とよく打ち合わせをし、子どもが十分に自然への興味・関心が深められるようにする。

○「自然体験型」のプログラム

対象学年 (小学校6学年) 教科等 (総合的な学習の時間・社会・理科等)

提案プログラム 「 梓川の水はきれいなのに新潟県に入るとなぜ汚れてしまうのかを追究 」

このような子どもたちが

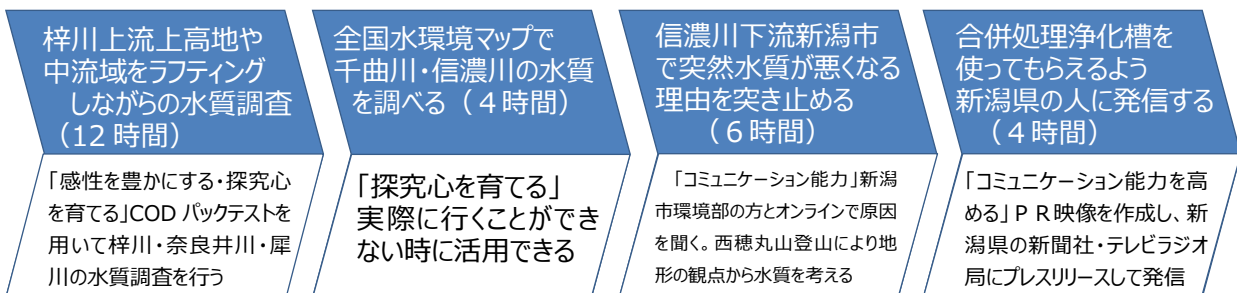
- ・素晴らしい自然がある上高地、梓川を流れる水がとてもきれいであることを知る子どもたち
- ・社会科で農家の高齢化、耕作放棄地が増え続けている現状を学んだ子どもたち

こうなります！

- 新潟市環境部の人にオンラインで直接話を聞き、信濃川下流の汚れの原因を突き止めます。
- 原因を突き止めた子どもたちは新潟県の人に発信します。→社会参画を始めていきます。

<地域の課題から他県とつながり、発信するプログラム例>

- 本校では「上高地学習」として1年生から6年生まで各学年のねらいに応じて自然体験・野外活動を含めた環境学習を行っています。ここでは6年生の実践の一部を紹介します。
- ・4年生時の社会科学習をきっかけに水質調査をしてきた子どもたち。5年生の社会科学習では日本の農家の高齢化や耕作放棄地の問題を学びます。この中で農家の負担を減らす「一発肥料」があることを知りますが、その殻がマイクロプラスチックになって海に流れ込んでいる現実に直面します。
- ・自然豊かな上高地から流れ出る梓川の水が海に近づくとき一気に汚れてしまう問題について、新潟県の人とつながり、学区の山、「西穂丸山」に登って地域を見返す活動を通して、新潟県の人に発信していこうとする子どもたちの姿が変わっていきます。



<参考となるアクティビティ>

P 13

<計画上の留意点>

- ・教師が「地元の山や川」「治水や利水」「農業」「環境」等の素材を徹底して研究することが必要です。
- ・年度当初、子どもたちの実態を踏まえながら、ねらいと年間カリキュラムを作成します。
- ・外部講師と事前に打ち合わせをし、子どもたちが本当に解決したい問題をについて答えていただくようお願いしておきます。
- ・年度末に全学年で1年間の活動をふり振り返り、外部講師と次年度の学習の方向を導き出します。

○「学校林型」のプログラム例

対象学年 (小学校高学年) 教科等 (総合的な学習の時間)

提案プログラム「里山体験学習」

このような子どもたちが

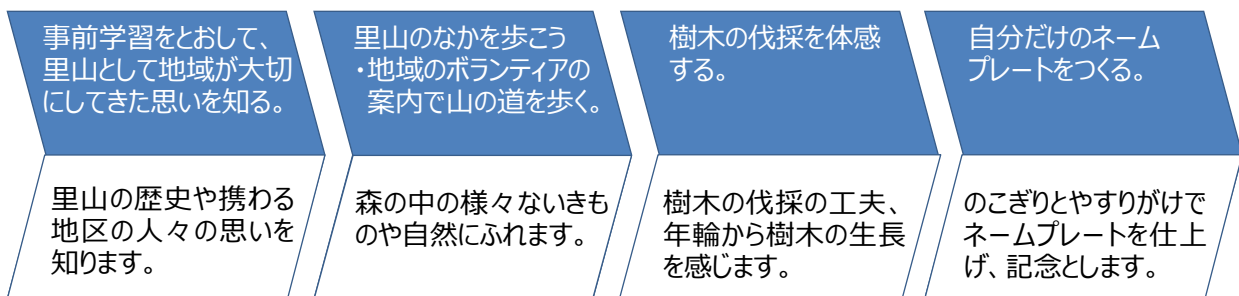
- ・学校や地域が里山を大切にしていることを知らない子どもたち
- ・身近な森林や里山に触れることがなく、その役割について考えることがない子どもたち

こうなります！

- 人が住む街と自然とをつなぐ里山について考え、その大切さに気付きます。
- 森林の役割や価値を知り、自然のいきものに触れようとする思いが育ちます。

<「感性を豊かにする・効果をより高める」アクティビティをいくつか組み合わせたプログラム例>

- 地域コーディネーターを中心に、地域の里山についてオリエンテーションを行う。
- 実際に里山（元学有林）を歩きながら、いきものにふれる。
- 間伐を兼ねた樹木の伐採プログラムにより、森林の役割や年輪からわかる気候の変容などについて知る。
- 間伐された樹木を材料に、身近なネームプレートに加工し、心に残す。



P 23、P 73 を参照

P 72 を参照

P 34、P72 を参照

<計画上の留意点>

- ・地域連携を図り、外部指導者をお願いすることで、安全で専門的な取組にしていきたいと思います。
- ・状況が許せば、地域ボランティアによる昼食のキノコ汁や専門家によるきのこの鑑定なども、地域連携の一つとして計画することもできます。
- ・総合的な学習の時間だけでなく、社会科の国土や産業の学習とも兼ね合わせながら、子どもたちの主体的な取組につなげていきたいと思います。
- ・ネームプレートの制作では、事前にデザイン画をイメージしておくと、スムーズに進みます。
- ・天候に左右されるため、雨天案の計画が必要です。屋内でできるアクティビティ（P50を参照）も用意しておきましょう。

○「学校行事型」のプログラム例

対象学年 (小学校5学年) 教科等 (総合的な学習の時間)

提案プログラム 「 学校での宿泊を伴う野外教室 」

このような子どもたちが

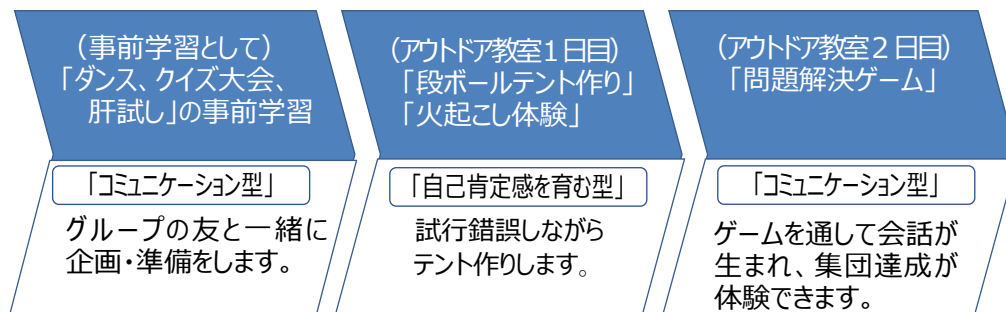
- ・失敗を恐れて、新しいことに挑戦することが苦手
- ・自分に自信がなく、自己主張することが少ない
- ・仲間の話に耳を傾けて、考えをまとめていくことが苦手

こうなります！

- 自己主張しながら、友だちの意見も聞き入れ、友と協力して課題解決ができるようになります。
- 建設的な意見が積極的に伝えられるようになります。

<「課題解決能力を高める」アクティビティをいくつか組み合わせたプログラム例>

- 車椅子利用の子も一緒に参加できるように、学校でのアウトドア教室を企画した。
- 通常登校後、宿泊のための段ボールテント作りを各自で行う。
- 火起こしについては、七輪を使って火起こし体験を行う。(実際には雨天中止となった)
- 体育館でのダンス、クイズ大会、肝試しのための計画を事前学習で行い、実施する
- 2日目の午前中は、問題解決ゲームをクラスや班ごとに取り組む。



P 4 9、P 5 1を参照

P 4 9、P 5 1を参照

P 5 4、P 5 8を参照

<計画上の留意点>

- ・問題解決ゲームでは、班編制を熟考します。この機会に関わりをもたせたい子どもたち、リーダー、ムードメーカーがそろって5～8人の班をつくります。
- ・コロナ禍では、密にならないように活動場所を分散させます。
- ・課題解決ゲームでは、教師は写真撮影もしくは特別に配慮が必要な児童に気を配るなど、子どもたちとの距離を置いて外部指導者に任せます。
- ・知恵、汗、声、力を出し合うことで、課題解決ができることを体験的に学びます。集団達成ができた成功体験を振り返りの中で位置づけて、その後の学校生活で生かしていきましょう。

○「学校行事型」「自然体験型」のプログラム例

対象学年 (中学校2学年) 教科等 (総合的な学習の時間)

提案プログラム 「 学校行事に取り入れるアクティビティ 」

このような子どもたちが

- ・学校登山に向けて期待を膨らませているが、事前学習が座学中心で物足りなさを感じている。
- ・学校登山は「登れるかな」「つらくないのかな」等、登ることだけに意識が向きがちで自然との触れ合いにまで関心が向かない。

こうなります！

- アクティビティを取り入れることで自然と触れ合う体験的な学習ができ、より登山が楽しくなる。
- 「登ること」だけでなく、自然と触れ合うことの楽しさや学びを体験的に得ることができる。

<「学校行事型」「自然体験型」のアクティビティをいくつか組み合わせた学校行事・総合的な学習の時間のプログラム例>

- 学校登山に向けて、自校でのオリエンテーションを兼ねたアクティビティ、予備登山等でのアクティビティを積み重ね、登山本番も、自然に目を向けて登山途中でもできるアクティビティを取り入れることで、山の自然についてより学習を深めることができる。

<p>学校登山のオリエンテーションを行う。 ・登山の心得を学ぼう</p>	<p>学校周辺でできるアクティビティを積み重ねる。 ・森の中を歩こう ・ウォークラリー</p>	<p>予備登山で歩きながらできるアクティビティを行う。 ・ネイチャーヒアリング ・自然が教える 1・2・3</p>	<p>実際の登山でアクティビティを行い、山の自然について学ぶ。 ・ネイチャーヒアリング他</p>
<p>学校行事型×2 学校登山に行く準備をアクティビティを通して行う。</p>	<p>自然体験型×4 学校周辺の森や学校林等で自然との距離を縮める。</p>	<p>自然体験型×4 登山本番でできるアクティビティを行う。</p>	<p>自然体験型×4 実際の山でもできるアクティビティで体験的に学ぶ。</p>

P 74 を参照

P 23、P 61 を参照

P 13、P 36 参照

P 13 を参照

<計画上の留意点>

- ・まずは、学校周辺や学校林で登山本番につながるようなアクティビティをしっかり行い、登山の目的が「登ること」だけにならないように、「自然に親しむ」「山の自然を知る」ことについて意識を高められるようにしていく。
- ・予備登山では、当日の登山と同じアクティビティを行い、当日も見通しをもって歩きながらできるアクティビティを体得させておく。例えば、今回の登山のように、ネイチャーヒアリングを通して、「川のせせらぎの音の大きさで、自分のいる位置がわかる」ということや、音によっていろいろな自然現象がわかることを体験することで、登山がより楽しくなると考える。
- ・「アクティビティはアクティビティ」「登山は登山」としてしまうと、アクティビティで行ったことが学びに結び付きにくいので、登山を大きな目標にアクティビティを活動に組み入れていくような形がよいと考える。

○「学校行事と自然体験学習の統合型」のプログラム例

対象学年 (中学校2学年) 教科等 (学校行事)

提案プログラム「ふるさとの魅力 再発見」

このような子どもたちが

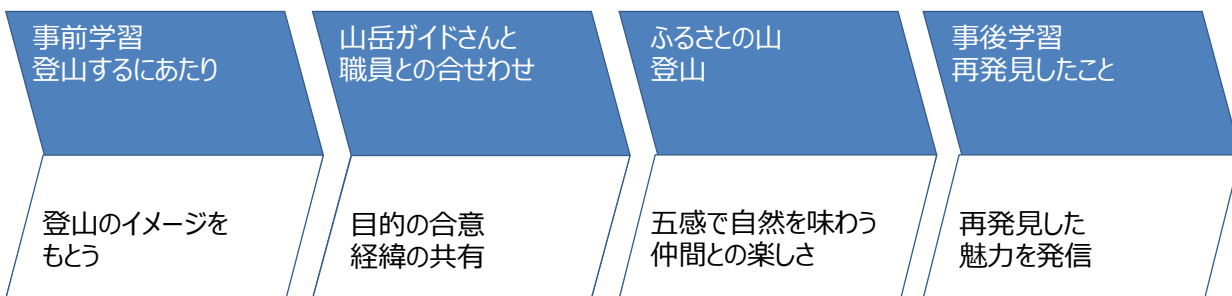
- ・美しい村を、自分たちができることを実践し継承したい。と感じている。
- ・一方、自然豊かな村の良さを、「こんな素敵なおところがある」と具体的に語れない面がある。

こうなります！

- 日頃取り組んでいる通学路のゴミ拾い等、村の美しさを継承する活動への意識を高めることができる。
- 体験で実感することにより、村の魅力を再発見し、発信することができる。

<「学校行事型」のアクティビティをいくつか組み合わせた自然体験学習プログラム例>

- 事前学習・係活動を通して、村の魅力について考え、自然の中での過ごし方を理解する。
- 山岳ガイドさんに同行してもらい、ふるさとの山の頂上をめざし、自然の中で友と過ごす楽しさを味わう。



P 4 0 参照

P 7 1 参照

P 6 1 参照

<計画上の留意点>

- ・目的を生徒と共有し、生徒の自主性を大事にする機会とする。
- ・係を位置づけ、主体的に運営できるようにサポートする。
- ・山岳ガイドさんから村・山・自然の魅力を伝えてもらう場を設定する。
- ・振り返りの時間に、活動の成果、活動中の困り感を共有し、今後の教育活動に役立てる。
- ・このプログラムでの学びを、他の教育活動に繋がるように配慮する。

○「学校行事型」のプログラム例

対象学年 (中学校1学年) 教科等 (総合的な学習の時間)

提案プログラム 「 地元の森林資源を知ろう ～赤沢自然休養林の魅力～」

このような子どもたちが

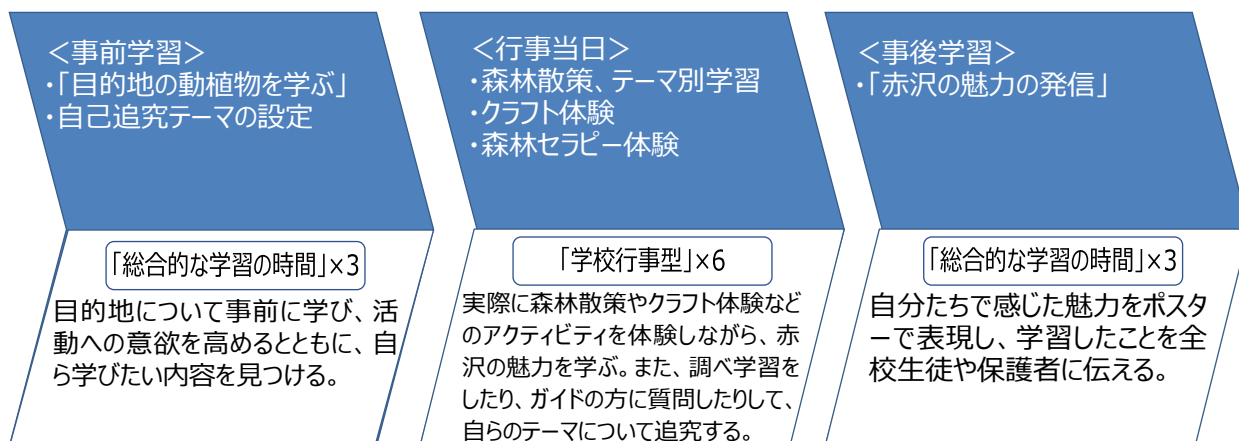
- 地元の森林資源について初めて詳しく学習する生徒
- 赤沢自然休養林に行ったことがあるが、そこに生えている木・植物や生息している動物、体験できる活動について具体的には知らない生徒

こうなります！

- 森林を散策しながら植物を手にとったり、クラフト体験をしたりすることで、体験的に自然について学ぶことができる。
- ガイドの方に質問しながら専門的に学ぶことで、赤沢自然休養林への理解を深め、地元の森林の魅力を知ることができる。

<「学校行事型」のアクティビティをいくつか組み合わせた総合的な学習プログラム例>

- 地元の森林保護地区「赤沢自然休養林」を活用し、自然への理解を深める。
- クラフト体験や森林セラピー体験など、観光地としての赤沢自然休養林のもつ価値を感じる活動を取り入れる。
- 生徒の主体性を高めるため、係活動を行い、事前学習や当日の活動進行を生徒が中心となっておこなう。



P 46 を参照

P 13、18 を参照

<計画上の留意点>

- ・地域との連携をふまえて、「森林資源」「町内の自然体験施設」「観光的価値」を指導の重点とする。
- ・生徒中心となって行事を運営できるように、係を設定し、講師への挨拶やクラフト体験の司会進行を生徒がおこなう。
- ・自己追究テーマを設定したり、クラフト体験の内容を生徒が決めたりすることで、生徒が関心と意欲をもって取り組むことができるようにする。
- ・学習内容にあった散策コースや解説を準備していただけるように、追究テーマについて事前にガイドと打合せしておく。

○「学校行事と自然学習の統合型」のプログラム例

対象学年 (中学校 1 学年) 教科等 (総合的な学習の時間)

提案プログラム

「豊かな自然と共存していることの魅力を全身で感じ、多くの人に発信しよう」

このような子どもたちが

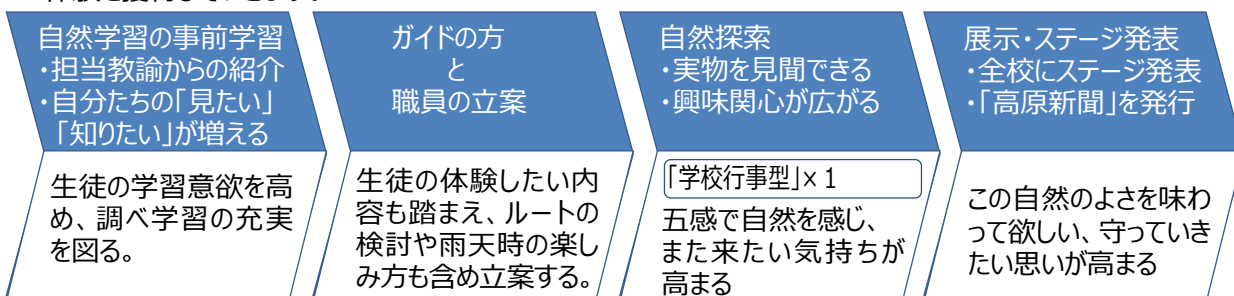
- ・地元から少し離れた国際的観光地を知らない。
- ・コロナ禍で体験学習が少ないため、課外学習の不慣れがある。
- ・「こんな自然があるのだよ」と語れない。

こうなります！

- 観光地を誇りに感じ、リピーターやサポーターに。
- コロナ禍でもできる課外活動を体験し、紹介できる。
- 体験を交えて語り、発信できる。

<「学校行事型」のアクティビティをいくつか組み合わせた総合的な学習の時間プログラム例>

○「次に親戚が来たら、自分が志賀高原を案内できるようになるう」をスローガンに、ガイドさんの力を借りて知識・体験を獲得していきます。



P 7 4 を参照

P 4 8 を雨天時案として

P 5 7、P 6 1 を参照

<計画上の留意点>

- ・ガイドの方と生徒の距離が近くなるように、散策での休憩時間を多めに設定する。
- ・ガイドの方の自然に対する思いを語っていただく機会を設定する。
- ・ただの旅行にならないように、知りたいことや見たいものを定めてから実施できるよう、ICT 機器を活用しながら、事前学習を丁寧に行う。
- ・自然を好きになれるように、雨の日企画を楽しいもの（クラフト体験・外来植物駆除⇒葉にする・歴史館訪問・ホテル支配によるヨガ講習など）にしたり、散策の旅程をゆったりさせたりする。

○「自然体験型 & 学校林型」のプログラム例

対象学年 (高等学校・里山コース) 教科等 (総合実習)

提案プログラム 「 ものづくり de 森づくり 」

このような子どもたちが

- ・Z世代で、スマホゲームや YouTube などでの刺激的でおもしろい活動や個人でも楽しめるバーチャル体験が生活の中心になっている。
- ・大人が子どもに対して過保護になっている。

こうなります！

- 非日常的な自然遊びを直接体験活動することで、好奇心や意欲が育つきっかけになる。
- 机上の知識に体験活動がリンクされることで、心身ともに豊か (健康) になれる。
- チームで体験し学び、気付く事で、リーダーシップやコミュニケーション能力が高められる。

<「自然体験型」「学校林型」のアクティビティをいくつか組み合わせた (ものづくり de 森づくり) プログラム例>

学校林での「木登り」を通して、自然との一体感を自らの五感で感じ取り、森づくりへの意欲を高めるきっかけづくり

ツリークライミングレクリエーション体験を通して、自ら感じ取った知識・感覚を基に、小学校交流に向けた森づくり活動に生かす。

小学生の遊び場である森林を活用し、「葉っぱ集めゲーム」を企画し、実体験を通して、樹木名を身近に知ってもらう

合同チームを編成し、各チームが採取した葉で答合せしながら、身近な遊び場にある樹木名を学べるよう企画を考える。

林産物 (経木) を有効活用して、アイデアを考え、デザイン提案～製作を通して「ものづくり・表現」の活動に繋げる

高校生が主体となって、小学生に木のぬくもりを五感で感じてもらうつつ、皆との楽しい交流を通して、作品を創り出していく。

学校林型 (P23、P52 参照)

自然体験型 (P50 参照)

インプット

アウトプット

アウトプット

<計画上の留意点>

- ・ツリークライミングレクリエーションでは、知識・技術面において、経験豊かなインストラクターに依頼する。
- ・大きな楽しみ「ちょっと怖そうだけど・ワクワク感」が抱けるように、事前のイメージ学習をしっかりとっておく。

○「自然体験型」のプログラム例

対象学年 (高等学校 2、3 学年) 教科等 (地歴公民、美術、商業、総合的な探究の時間)

提案プログラム

「 南信州南部地域の自然をフィールドに、生徒自らが探究するプログラム 」

このような子どもたちが

- ・中学校で自然を体験する機会が少なく、学校でもリーダーシップをとることが少ない。
- ・スマートフォンでゲームや動画を見る時間が長く、体験的な活動の経験が少ない。
- ・家庭と学校だけの人間関係にとどまって、地域のつながりが希薄である。

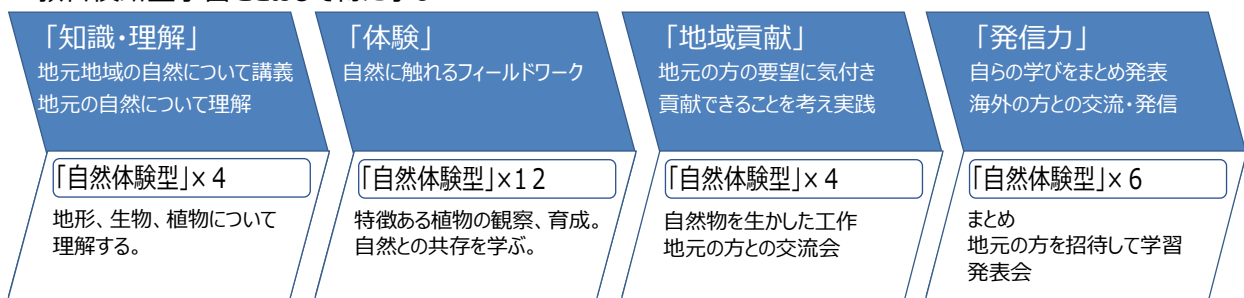
こうなります！

- 自分 1 人の力でもできることに気づき、自信がもてることで、自己有用感が高まる。
- 地元の自然の大切さに改めて気づき、自らができることを考える。
- より多様なコミュニケーションを学び、地域に貢献できる方法を考えるようになる。

<「自然体験型」のアクティビティをいくつか組み合わせせた地域探究プログラム例>

- 地歴公民科、美術の授業で南信州南部町村（下條村、阿南町、売木村、泰阜村、天龍村）の地元の自然について基礎的な知識を学ぶ。
- 地歴公民科、美術で学んだ知識をもとに地元の自然に触れるフィールドワークをおこなうことを通じて、地元地域で行われている環境保全活動について体験しながら学ぶ。
- 探究科の授業で地元について生徒がフィールドワークを行い、ポスターなどにまとめ、発信する。
- 商業科で地元の自然を生かしたビジネスについて学びながら、地元の方との交流や情報発信について学び、より多くの方に地元の魅力について知ってもらう方法について生徒自らが考えていく。

1 教科横断型学習をととして得た学び



P 40 を参照

P 35、56 を参照

P 73 を参照

P 50、61 を参照

<計画上の留意点>

- ・教科を横断した内容になるため、各教科、各コースをまたいだ指導内容について情報共有及び打合せを念入りに行う。
- ・生徒の中には小・中学校でもこのような経験をしないまま、高校へ進学した生徒も多く、自然の危険性を理解していないケースも多い。特に山間地域での体験が多いため、体験地域への往復を含め、生徒自身が自らの身を守る方法を理解できるよう事前学習をしっかりと行う。
- ・地域連携の方法については、地元町村とも連絡を密に取り合い、地域コーディネーターとともに内容の検討を行う。